

# 大東市埋蔵文化財発掘調査概報

1992年度

1993年3月

大東市教育委員会

## 序 文

東を臨めば牛駒山系、西には広大な河内平野が続く大東市域は、古来より人々の生活の拠点として、また交通の要衝として、現在に至るまで人々の活動が途切れることのない地域であったことは容易に想像できるでしょう。しかし、その証拠或いは具体的な痕跡、事實を目のあたりに見ることは、決して容易なことではありません。今から三百年位前までは、縄文時代や弥生時代によく見られる石の矢じりは、天から降ってきたものとさえ云われていたそうですが、現在このようなことを信じる人はいないでしょう。この話は氷山の一角に過ぎず、まだまだ現代の私達には、理解できることはたくさんあるでしょう。

人々の歴史を明らかにする一つの方法、学問として考古学が生まれ、上地に埋もれた人々の歴史を明らかにすることが可能になりました。これらの埋蔵文化財は、私達人類の未来を豊かにするための宝物であることを、ここに改めて自覚したいものです。

ここに報告します今年度の国庫補助事業による埋蔵文化財の調査は、決して世間の目を引くものではないかも知れませんが、これら小規模といえる調査の集積こそが大切であると考えております。

最後になりましたが、今年度の調査事業につきましては、多くの市民の方々を始めとして、各関係機関及び各位のご指導、ご協力があって初めて成り立ってきたことを心よりお礼申し上げます。

平成 5 年 3 月

大東市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、大東市教育委員会が平成4年度の国庫補助事業として実施した市内遺跡の発掘調査概要である。
2. 調査は大東市教育委員会技師黒田淳が担当した。
3. 調査は平成5年2月15日着手し、平成5年3月31日にすべての整理作業を終了した。
4. 本書の執筆、編集は担当者が行った。
5. 調査及び本書の作成にあたっては山田芳樹、小矢田誠司、井戸上照子、井尻山美子、徳田登喜子、古木あづさ諸氏の協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。
6. 本書に使用した図画の方位はすべて座標北を示し、標高はT.P.を用いた。
7. 調査中は各土地所有者ならびに地元関係者の方々より懇切な御協力を頂いた。また、有益な御指導、助言を頂いた大阪府教育委員会を始め各関係機関に対し、厚く感謝の意を表する。
8. 本書に収録しえなかった本年度の調査にも重要な成果を得たものがある。改めて報告の機会を待ちたい。

## 本文 目 次

I 位置と環境.....	1
II 平成4年度の発掘調査概要.....	7
III 寺川古墳群の調査.....	11
IV 寺川浜遺跡の調査.....	14
V 三箇遺跡の調査.....	17

## 挿 図 目 次

第1図 大東市埋蔵文化財分布地図.....	5
第2図 寺川古墳群（TRK）調査区位置図.....	11
第3図 レンチ位置図（TRK 92-3）.....	12
第4図 南壁土層断面図（TRK 92-3）.....	13
第5図 寺川浜遺跡（TKH）調査区位置.....	14
第6図 レンチ位置図（TKH 92-2）.....	15
第7図 南壁上層断面図（TKH 92-2）.....	15
第8図 レンチ位置図（TKH 92-3）.....	16
第9図 南壁・西壁上層断面図（TKH 92-3）.....	16
第10図 三箇遺跡（SNG）調査区位置図.....	17
第11図 レンチNo.1 北壁・東壁土層断面図(SNG 92-4) .....	18
第12図 レンチNo.3 西壁・北壁土層断面図(SNG 92-4) .....	18
第13図 レンチNo.2 北壁・東壁土層断面図(SNG 92-4) .....	18
第14図 レンチ位置図(SNG 92-4) .....	19

## 表 目 次

第1表 大東市遺跡地名表.....	3
第2表 平成4年度 57条2・3届出件数月別集計.....	7
第3表 平成4年度 57条2・3回答件数月別集計.....	7
第4表 遺跡別届出・調査件数集計.....	8
第5表 式掘調査一覧表.....	9
第6表 その他の調査一覧表.....	10
第7表 寺川古墳群（TRK）調査区一覧表.....	12
第8表 寺川浜遺跡（TKH）調査区一覧表.....	14
第9表 三箇遺跡（SNG）調査区一覧表.....	18

## 図 版 目 次

図版一 寺川古墳群（TRK 9 2 - 3）	調査前・調査状況
図版二 寺川古墳群（TRK 9 2 - 3）	調査状況・南壁土層断面
図版三 寺川古墳群（TRK 9 2 - 3）	測量調査状況・同上
図版四 寺川浜遺跡（TKH 9 2 - 2）	調査前・トレンチ全景（北から）
図版五 寺川浜遺跡（TKH 9 2 - 2）	調査状況・南壁土層断面
図版六 寺川浜遺跡（TKH 9 2 - 3）	調査前・調査状況
図版七 寺川浜遺跡（TKH 9 2 - 3）	西壁土層断面・同上
図版八 三箇遺跡(SNG 9 2 - 4)	調査地全景(東から)・トレンチNo.1 調査状況
図版九 三箇遺跡(SNG 9 2 - 4)	トレンチNo.2 調査状況・トレンチNo.3 調査状況
図版十 三箇遺跡(SNG 9 2 - 4)	測量調査状況・トレンチNo.1 (南から)
図版十一 三箇遺跡(SNG 9 2 - 4)	トレンチNo.2 (南から)・トレンチNo.3 (東から)

## I 位置と環境

### 1. 位置と自然環境

大東市は大阪府の北東部に位置し、北は四条畷市、寝屋川市、西は門真市、大阪市、南は東大阪市、東は奈良県の生駒市と境界を接している。面積は、18,058km<sup>2</sup>、人口12.8万人を数える。市域の地形を概観すると、東部の山間部と西部の平野部とに大きく分けられる。東部では生駒山系の一支脈である標高314mの飯盛山が南北に横たわり、そこから複数の尾根が西の平野部に向かって派生し、丘陵地形を形成している。尾根と尾根の間には小河川が流れ、谷を形成し、平野部に流れだすところでは小規模な扇状地を形成している。平野部は、かつて原始から古代にかけて、河内湾、河内湖であったところで<sup>10</sup>、近世まではその名残りで、深野池が存在したが、新田開発などによって姿を消している。現在でも、大阪平野のなかでも一番低い場所となっており、近年まで水害に悩まされ続けてきたが、下水道、治水緑地等の整備により、それも解消されている。

### 2. 歴史的環境

先にも書いたとおり、平野部のはとんどが河内湾、河内湖に覆われていたため、現在確認されている遺跡の大半が、水辺にあたる山裾か丘陵地に立地している。遺跡としては、東大阪、八尾、柏原市域同様、生駒山地西麓の遺跡群として位置づけられる。以下各時代ごとに大東市内の遺跡について概観する。

**旧石器時代** 市内の旧石器時代の遺跡としては、北条遺跡、宮谷古墳群でそれぞれ有舌尖頭器が1点ずつ出土している<sup>11</sup>のみである。今後の調査と資料の集積が望まれるところである。

**縄文時代** 市内の縄文時代の遺跡には、北新町遺跡、鍋田川遺跡、城ヶ谷遺跡などがある。北新町遺跡では、中期から後期<sup>12</sup>、鍋田川遺跡では早期から前期、中期、晚期<sup>13</sup>、そして城ヶ谷遺跡からは晩期（船橋式）<sup>14</sup>の上器が出土しているが、残念ながら生活面の遺構に伴うものではなく、旧石器時代同様、この時期に関する状況は不明な点が多い。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡としては、中垣内遺跡、鍋田川遺跡、国見高地性遺跡、メノコ遺跡、寺川遺跡、宮谷古墳群、北条遺跡、城ヶ谷遺跡、北新町遺跡などがある。なかでも中垣内遺跡は、河内湖の縁辺部である低地に立地した前期から中期の集落で、拠点的大集落であった可能性が強い<sup>15</sup>。中期以降になると低地だけではなく、山手の丘陵地にも集落が営まれたことが、出土遺物から窺い知ることができる。

**古墳時代** 古墳時代になると他の生駒山地西麓地域同様に、山手の丘陵地に古墳が築造される。市域では今のところ前期古墳の存在は確認されておらず、古墳が築造されるのは中期以降のようである。代表的なものとして、豊富な鉄製品と初期須恵器が出土した中期の堂山1号墳<sup>①</sup>がある。後期古墳では北条1・2号墳<sup>②</sup>、宮谷1号墳、城ヶ谷1・2号墳<sup>③</sup>などが近年の調査で発見されている。しかしながら、調査を経ないまま破壊された古墳も多く、採集遺物から多くの後期古墳が存在していたことが推定される。集落跡としては、前期の大型の倉庫群が検出された北新町遺跡<sup>④</sup>や、同じく前期に属し祭祀に関連した遺構が検出された中垣内遺跡、鍋田川遺跡<sup>⑤</sup>の跡の他、初期須恵器が出土したメノコ遺跡などがある。

**古代** 市内の古代の遺跡は調査例が少なく詳細は不明である。寺川瓦窯遺跡では、飛鳥から白鳳期の瓦が出土しており、寺院跡と考えられている。集落跡では具体的な調査例に乏しく、野崎条里遺跡で奈良時代の柱穴跡が、北新町遺跡で奈良時代の自然河川から人面墨書き土器が出土している<sup>⑥</sup>。

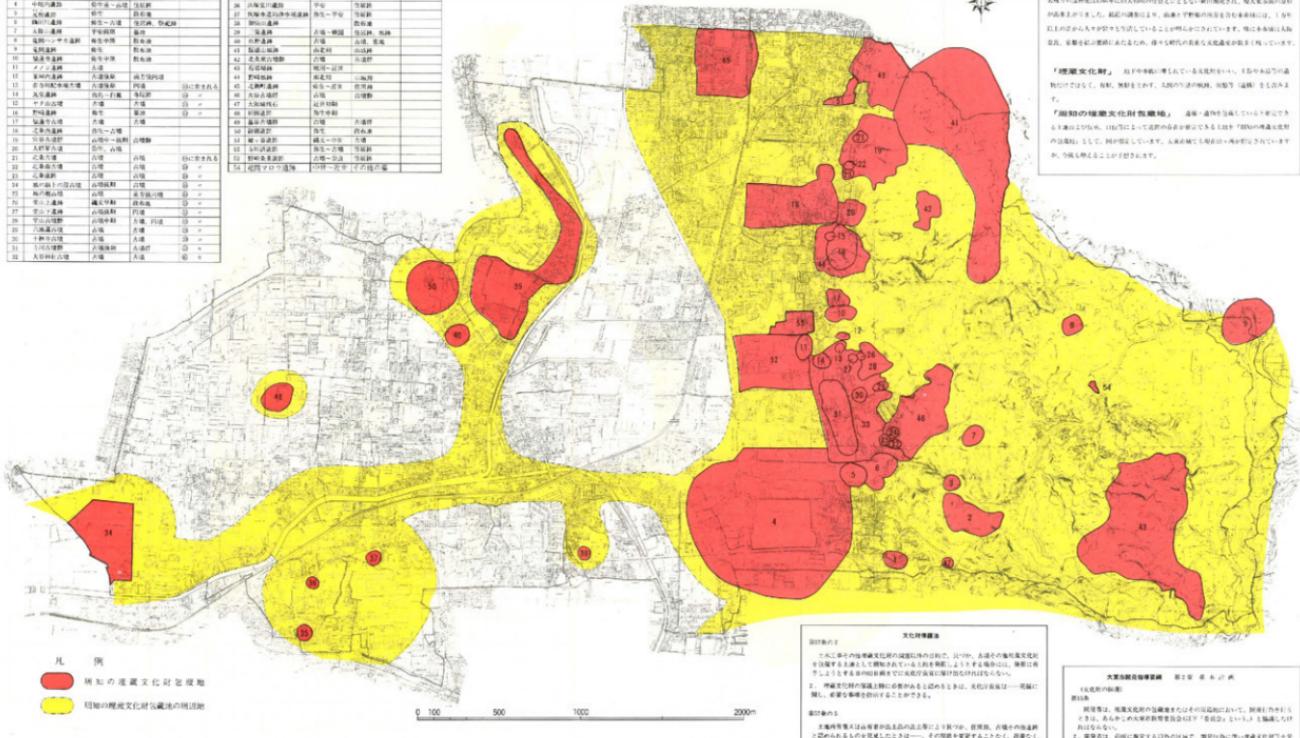
**中世** 中世の遺跡は市内の各地に広がり点在するようになる。特にこの時期になると山手の丘陵地での開発が進んだらしく、そこでの調査では必ずといっていいほど中世の遺物が出土する。低地での集落跡では、溝によって区画された住物跡が検出された北新町遺跡がある<sup>⑦</sup>。

**近世** 近世の遺跡は、生産遺跡として大阪城築城関連の石切場跡遺跡<sup>⑧</sup>がある。城郭跡では飯盛山跡<sup>⑨</sup>、三箇城跡がある。

第1表 大東市遺跡地名表

遺跡番号	名 称	立 地	概 要
1	石 宮 遺 跡	丘 嵐 中 嶽	磨製石劍（最明池で採集）弥生時代後期土器、土鏡。
2	因 兄 高 地 性 遺 跡	山 頂	弥生時代中期・後期土器（豆、高杯）、○印の刻印石、欠穴石が残る。
3	七 つ 畏 り 古 墳	丘 嶺	石棺1基が発見されたと伝えられる。
4	中 堀 内 遺 跡	扇状地～平地	弥生時代前期小窓穴住居跡、土坑、柱穴、杭列、弥生時代中期土坑、柱穴、丼。弥生時代前期・中期・後期土器、磨製石斧、打製石鏟、石包丁、木製島（廉、鰐）が出土。 占墳時代前期住居跡、掘立柱建物、土坑、丼。占墳時代土器（布雷武士器）須恵器、管下、青銅製鋸歯み、小型素文鏡、直弧文入木製品、獸骨が出土。
5	元 粉 遺 跡	扇 状 地	串壓上器などが円形で出土したと伝えられる。
6	鍋 田 川 遺 跡	扇 状 地	古墳時代前期土坑、柱穴。弥生時代中期土器、占墳時代前期須恵器（布雷武士器）、卜骨、鉢式糸口器、須恵器、坑輪、滑石製有孔引板などが出土。
7	大 振 山 遺 跡	山 頂	平安時代須恵器、白金製造（裁縫器）、人骨、釘、轆。
8	毫 間 ハンサカ 遺 跡	山 中	磨製石劍、打製石小刀が出土。
9	毫 間 遺 跡	山 脇	石小刀、土器。
10	福 蓬 寺 遺 跡	台 地	弥生時代中期土器。
11	メノコ 遺 跡	台 地	古墳時代中期井戸、柱穴、躑躅、奈良時代棟持柱建物。占墳時代須恵器、土器、初期須恵器、韓式系土器、奈良時代土器、移動式カマド等が出土。
12	峯 堀 内 遺 跡	台 地	前方後円墳（峯堀内古墳）須恵器、子持高杯が出土したと伝えられる。円筒埴輪を採集。
13	市水道寺川排水場古墳	台 地	円筒埴輪採集。
14	瓦 壇 遺 跡	平 地	守院跡？飛鳥から白鳳期の瓦が出土。
15	ヤタ山 古 墳	山 頂	方形形状台地あり。須恵器、中世土器器皿採集。
16	野 崎 遺 跡	丘 嶺 顶	弥生時代後期土器（壺型土器柄、幼児骨残存）が出土。
17	福 蓬 寺 古 墳	丘 嶺	消滅。
18	北 条 西 遺 跡	丘 嶺	口石器、石包丁、古墳時代土器器、須恵器、中世土器。
19	宮 谷 古 墳 群	山腹～丘陵 斜面	有舌尖環器、弥生時代後期土器、片状片刃石斧、初期須恵器大甕、占墳時代後期土器器、須恵器、鉢輪、円筒埴輪、形象埴輪、瓦器、中世土器群。宮谷1号墳撿出。
20	大 将 军 古 墳	丘 嶺 斜 面	弥生時代後期土器、古墳時代後期土器器、鉢輪片。
21	北 条 古 墳	丘 嶺 腹	古墳時代後期須恵器（縪瓶、壺、高杯）が出土。消滅。
22	北 条 南 古 墳	台 地	古墳時代後期土器器、須恵器、石材、消滅。
23	北 条 遺 跡	丘 嶺 腹	後期古墳3基（北条1～3号墳）椚山。有舌尖環器、弥生時代後期土器、占墳時代後期～奈良時代土器器、須恵器、瓦器、中世土器器。
24	城 の 越 し の 段 古 墳	台 地	前方後円墳？石棺を3基発見したと伝えられるが詳細は不明。消滅。
25	城 の 越 古 墳	台 地	前方後円墳？円筒埴輪片。
26	紫 山 上 遺 跡	台 地	古墳時代前期。
27	紫 山 下 遺 跡	台 地	彷彿鏡の出土が伝えられるが詳細は不明。

遺跡番号	名 称	立 地	概 要
2 8	堂 山 古 墳 群	台 地	章山: 1号墳: 平原古墳、円墳、木棺直葬、初期須恵器、想甲、鉢刹、勾玉、形象埴輪。 堂山: 2 ~ 8号墳: 後期古墳、円墳、横穴式石室。3号墳に須恵器四柱式陶棺、4号墳に丁字形石室。その他弥生時代後期商、弥生時代前期・中器上器、石器、大型石臼丁、瓦器、中世土師器。
2 9	六 地 藏 古 境	丘 陵	円筒埴輪10数本出土。
3 0	十 林 寺 方 古 境	丘 陵	前方後円墳? 石棺の出土が伝えられる。
3 1	寺 川 古 境	丘 陵	石棺の出土が伝えられる。古墳時代後期須恵器、土師器。
3 2	大 谷 神 社 古 境	丘 陵	勾玉出土(明治年間、京大)。
3 3	寺 川 道 路 台	地	古墳時代、奈良時代掘立柱建物、弥生時代土器、古墳・奈良時代土師器、須恵器、瓦器、中世土師器。
3 4	西 清 福 道 路	低 濡 地	弥生時代中期土器、石器、石臼丁、骨角器、中世・近世の井戸、土師器、染付、木製品(下駄、今塔婆、箸)、五輪塔。
3 5	灰 塚 道 路	平 地	須恵器、中景土師器、瓦器
3 6	灰 塚 堂 田 道 路	平 地	須恵器、中景土師器、瓦器
3 7	水 道 尾 清 水 第 遺 跡	平 地	弥生時代土器、古墳・奈良時代土師器、須恵器、瓦器、中世土師器。
3 8	御 供 田 道 路	平 地	須恵器。
3 9	二 善 道 路	平 地	近世の杭列、須恵器、土師器、染付。
4 0	水 野 道 路	平 地	土師器。
4 1	飯 盛 山 城 路	山 中	中世～近世の山城跡、堀、塹が残る。土師器。
4 2	北 条 東 古 境	山 中	後期古墳群? 詳細は不明。
4 3	石 切 場	山 中	「    」等の刻印中心や、石奉行「足立家」の領地を示す境界石、矢穴石が残る。(大阪城築城間差の遺構、遺物)
4 4	野 岐 城	丘 陵	中世山城、鹿が残る。
4 5	北 新 町 遺 跡	平 地	扇状地～平地 縄文～中近世の複合遺跡。古墳時代水田跡、掘立柱建物、土坑、井戸、奈良時代河川、鎌倉時代の掘立柱建物、土坑、井戸、褐土文土器、弥生時代土器、古墳時代前期土器(布密式)、人面墨書き土器、須恵器、輸入陶磁器、瓦器、中世七輪器。古墳時代のゴロ装置一式。
4 6	大 谷 古 境	丘 陵	後期古墳群? 詳細不明。
4 7	大 坂 城 残 石	台 地	穴穴、刻印が残る。
4 8	新 田 道 路	低 濡 地	石棺出土。
4 9	墓 谷 古 境	丘 陵	後期古墳群? 弥生時代後期土器、古墳時代後期須恵器、土師器、土師質亀甲形陶棺、铁刀。
5 0	御 須 道 路	平 地	弥生時代中期土器、古墳時代須恵器、瓦器、中世土師器。
5 1	城 ケ 谷 道 路	丘 陵	後期古墳群: 城ヶ谷1号墳、2号墳、横穴式石室、円筒埴輪列(3号墳) 中世の杭列、繩文時代後期土器、弥生時代後期土器、須恵器、瓦器。
5 2	寺 川 浜 遺 跡	平 地	奈良時代水田跡、弥生時代後期～古墳時代水田跡、古墳時代前期土器、須恵器、土師器等が出土。
5 3	野 岐 条 里 遺 跡	平 地	古墳時代～奈良時代の水田跡、中世の溝を検出。瓦器、土師器、須恵器、等出土。
5 4	龜 間 マ ロ ウ 道 路	山 中	中世～近世。墓?



第1図 大東市埋蔵文化財分布地図

東京は大阪東京駅、いわゆる御堂筋道の中には中央道に位置します。千手山通りには、人形店舗、飛鳥内商店街など込んでいました。やがて内閣閣、内閣内閣となり、その後の皇室御用店は1926年に財政内閣内閣となると第一銀行開設され、皇室御用店の役目を失りました。長崎の通りより、山手と宇野町の両方を含む本通りには、「万葉の歌から八重の歌までを説いて」いることが記されています。現在は本通りを  
御堂筋通りに通じたあたり、様々な時代の歴史や文化遺産が数多く残っています。

埋蔵文化財」以下中古車に埋もれている文化財をいい。主な車谷町の遺物だけではなく、有軸、馬具をとかす、火器の生産の痕跡、火薬等「遺物」をも含みよ

**周知の権限文化財保護地**　最後、遺物を所有していると認定された者により私有、日付等によって近世の古名が記述できる土地を「周知の権限文化財保護地」として、国が認定しています。人蔵地図で現在の西が認定されています今後も増えることが予想されます。

## II 平成4年度の発掘調査概要

平成4年度に文化財保護法57条2及び3に基づく発掘届・通知は2・3表のとおり96件を受け付けた。届出件数としては前年度並に落ちていた。(前年度は91件) そのうち一般民間事業は79件を数え、相変わらず高い割合をしめているが、公共事業に係わるものも国の景気対策の影響で件数が増加している。一般民間事業ではバブル経済崩壊の影響をもろに受けて、個人事業での大規模開発やマンション建設は影をひそめ、個人住宅の建替や小規模の共同住宅建設が目立った。

届出・通知の主な事業内容から、事前に発掘調査を必要としたものは28件を数え、そのうち調査を実施したものは26件であった。公共事業に伴うものは9件、残り15件は民間事業に係わるものが占めた。公共事業では、市下水、関西電力の事業に伴う調査が多い。

遺跡別にみると、中垣内遺跡、三箇遺跡、寺川古墳群、北条西遺跡が多い。中垣内遺跡が多いのは、包蔵地範囲の広いこともあるが、今年度は遺跡内に所在する関西電力の事業(鉄塔の建替等)が多かったためである。三箇遺跡は届出件数に対する調査件数が少ないがこれは基礎掘削の浅い個人専用住宅が多いことと、工法的に盛土をする場合が多いいため

第2表 平成4年度57条2・3届出件数月別集計

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市・関係公共事業	0	0	2	0	3	1	1	2	0	0	0	0	9
国・府関係公共事業	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
関西電力・大阪ガス	0	0	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	6
その他民間事業	9	8	7	5	6	5	5	4	8	4	9	9	79
計	9	8	11	5	10	6	6	11	8	8	9	9	96

第3表 平成4年度57条2・3回答件数月別集計

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
発掘調査	2	2	2	1	0	5	2	2	6	0	5	1	28
立会調査	1	0	0	2	0	4	1	1	4	3	6	5	27
慎重工事	10	1	1	0	0	7	2	0	4	0	10	1	36
計	13	3	3	3	0	16	5	3	14	3	21	7	91

である。

周知の埋蔵文化財包蔵地以外の地域（本市では遺跡の周辺地域として定めている）でも事前の試掘調査を実施して遺跡の発見に努めている。今年度は21件の試掘調査を実施しているが、新規の遺跡発見はなかった。

今年度の発掘調査の成果として一番に挙げられるのは、関西電力東大阪変電所内において、送電線鉄塔建替に伴い調査を実施した中垣内遺跡である。これまで中垣内遺跡では、弥生時代前期の遺構面しか確認されていなかったが、今回の調査では弥生時代中期の遺構

第4表 遺跡別届出・調査件数集計

遺 跡 名	届 出 件 数	発 掘 調 査 ①	立 会 調 査 ②	①+②
中 垣 内 遺 跡	1 5	1 0	5	1 5
北 新 町 遺 跡	3		2	2
寺 川 遺 跡	4		3	3
寺 川 古 墳 群	6	4	2	6
三 筒 遺 跡	2 7	6	3	9
北 条 西 遺 跡	1 3	4	6	1 0
鍋 田 川 遺 跡	1		1	1
宮 谷 古 墳 群	1			
野 崎 城 跡	1	1		1
大 将 軍 古 墳	1			
御 供 山 遺 跡	1	1		1
福 蓮 寺 遺 跡	1		1	1
御 領 遺 跡	3	1	1	2
西 諸 福 遺 跡	2	1		1
新 田 遺 跡	3	1		1
寺 川 浜 遺 跡	8	3	2	5
野 崎 条 理 遺 跡	3	1	2	3
冰 野 遺 跡	1		1	1
灰 塚 堂 田 遺 跡	1			
竜 間 ハンサカ 遺 跡	1			
計	9 6	3 3	2 9	6 2

面が検出され、集落が営まれていたことがわかった。また、前年度に引き続き府営住宅建設に伴い調査を実施した北新町遺跡では、前回と同様に中世前半の集落跡が検出された。その他、下水道工事に伴い調査を実施した寺川浜遺跡（1区）では古墳時代前期の遺構が、三箇遺跡（3区）では遺構は検出されなかったが古墳時代～中近世の遺物が出土した。三箇遺跡で、古墳時代の遺物が出土したのは初めてであり、今後、遺構の検出を期待する調査成果であった。

最後に、今年度実施したその他の調査を一覧表に示す。本年度は届出件数・調査件数こそ前年度並ではあったが、やはり大半を外業調査に費やされた関係で末報告に終わった遺跡が多い。今後機会をみて報告していくつもりである。

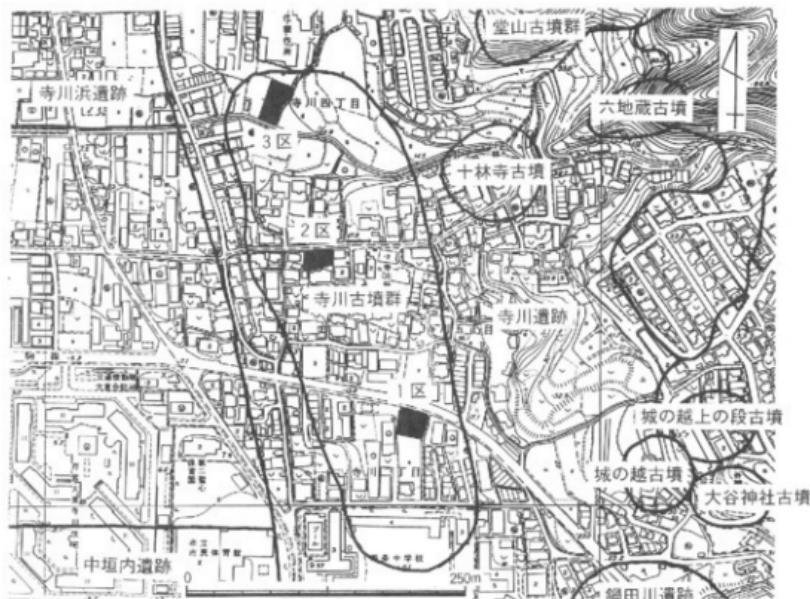
第5表 試掘調査一覧表

平成4年度 大東市周辺地試掘調査一覧				
番号	所 在 地	面 積	用 途	調査期間
1	三箇5-65-1,2,66,67,68-2.82	4,869.5m <sup>2</sup>	共同住宅・倉庫	4月17日
2	野崎4-115-1 他	2,441.9m <sup>2</sup>	共同住宅	5月7日
3	三箇4-380	432.1m <sup>2</sup>	共同住宅	5月15日
4	御供他1 243-7,8	73.3m <sup>2</sup>	店舗付住宅	6月10日
5	明美の里町485-7,9 他	317.7m <sup>2</sup>	共同住宅	7月3日
6	灰塚5-440-1	173.1m <sup>2</sup>	長屋住宅	8月6日
7	三箇6-418	1,433.9m <sup>2</sup>	倉庫	8月7日
8	諸福3-135-3	202.1m <sup>2</sup>	共同住宅	8月11日
9	三箇4-13-3	690.3m <sup>2</sup>	石油スタンド	8月21日
10	三箇4-512,513	2,030.6m <sup>2</sup>	共同住宅	9月2日
11	津の辺町715-2,716,717,718の一部	762.8m <sup>2</sup>	共同住宅	9月4日
12	朋来1-92-4,5	266.1m <sup>2</sup>	個人専用住宅	9月18日
13	竜間305 1 他	175,708.1m <sup>2</sup>	事務所	9月25日
14	諸福4-541-1 他	1,323.7m <sup>2</sup>	店舗	10月20日
15	灰塚2-770-1	1,105.9m <sup>2</sup>	共同住宅	10月27日
16	灰塚4-288-3,4	1,228.7m <sup>2</sup>	共同住宅	10月27日
17	諸福4-543-1,3,4	2,031.0m <sup>2</sup>	工場	10月29日
18	深野北510,511の一部	953.3m <sup>2</sup>	宅地造成	12月3日
19	諸福8-507-1,11	13,851.9m <sup>2</sup>	倉庫	平成5年 1月12日
20	灰塚2-776-1	724.9m <sup>2</sup>	共同住宅	平成5年 3月4日
21	浜町629-1,7	1,189.9m <sup>2</sup>	共同住宅	平成5年 3月16日

第6表 その他の調査一覧表

中垣内遺跡 (N G T) 調査区一覧表							
番号	所在地	面積(ha)	用	調査期間	調査	査	備考
1	中垣内5地内	225.0	鉄塔建設	6. 22 ~10. 30	弥生時代前期、中期の集落跡。房、ピット検出。 古墳時代後期、中期の墓葬出土。		測量報告
2	南新山2-223-1 他	4.304.1	貯	6. 11	トレンチ 2ヶ所。G.L.-5.0mまで確認。遺物、遺構なし。		
3	中垣内5地内	42.0	充電機室	9. 2	以前の基礎工事の跡。硝土の範囲。		
4	中垣4-1069 1他	421.53	宮V建設	8. 3	G.L. 1.5mまで層削。盛土の範囲。		
5	中垣内1 401 1	547.07	住宅	10. 15	G.L. 40cmまで層削。盛土の範囲		
			淨化槽	11. 2	G.L. 1.5mまで層削。青灰色・青褐色砂層		
6	中垣内5~7地内	92.14	道路新設	9. 11 10. 21	G.L. 3.5mまで層削。盛土、浅地、遺構なし。 古墳作土、青灰色細砂。		
7	中垣内2-516 他	993.38	共同住宅	9. 17	G.L.-40cmまで層削。盛土の範囲。		
8	中垣内7-252-1	96.04	鉄塔建設	11. 27	G.L.-3mまで確認。遺物、遺構なし。		
9	中垣内7-702-5	57.76	鉄塔建設	11. 26	G.L.-4.4mまで確認。遺物、遺構なし。		
御領遺跡遺跡 (G R Y) 調査区一覧表							
1	御領1 257 1	8,371.4	I. 勝建設	4. 8	トレンチ 1ヶ所。G.L.-3.5mまで確認。遺物、遺構なし。		
西諸福遺跡 (W M O) 調査区一覧表							
1	基塙5-668-1	278.37	銀行店舗	5. 19 ~6. 20	中世から近世の施、井戸、土蔵跡、受付、下駄、平底甕、五輪塔出土。		測量報告
新山遺跡 (S N D) 調査区一覧表							
1	太子町3 190 1	1,921.9	倉庫	7. 21	トレンチ 2ヶ所。G.L.-4.4mまで確認。遺物、遺構なし。		
野崎条里遺跡 (N Z J) 調査区一覧表							
1	野崎4-154-1 他	2,291.6	農園店舗	8. 3 ~9. 4	中世から近世の施、中世の自然流路。 古墳時代後期以降承認までの水田跡。		
2	野崎3地内	19.6	下水管埋設	平成5年1.8 ~1.12	掘孔部分。盛土 G.L.-1.3mまで確認。遺物、遺構なし。		
北条西遺跡 (H O N) 調査区一覧表							
1	北条1 1144	672.63	共同住宅	7. 2	G.L.-0.2~1.1mで遺物包含層確認。		設計変更
2	北条1地内	77.68	下水管埋設	平成5年3月 3. 2	G.L.-0.8~1.5mで遺物包含層確認。		緊急部分 は次年度

### III 寺川古墳群の調査



第2図 寺川古墳群（TRK）調査区位置図

寺川古墳群は市域の東部、寺川2丁目から5丁目にかけて、南北約450m、東西170mの範囲で広がっている遺跡である。標高は約8~14mを測り、地形的には台地斜面にあたる。以前に石棺が出土したと伝えられるが、調査を経ていないので詳細は不明である。1990年に実施した調査でも土師器、古墳時代の須恵器、弥生土器等の遺物は出土したが、残念ながら遺物に見合う時期の造構は検出することはできなかった。しかしながら須恵器片、傾輪片等が採集されることから、かつて古墳が存在していたか、或は現在も存在していると推定される。

寺川古墳群では、今年度3箇所の調査を実施している。1区は車庫建設に伴う調査で、トレンチを3箇所設置してGL-70cmまで実施したが、盛土、旧耕作土の範囲で遺物、造構は検出されなかった。2区は専用住宅建設に伴う調査で、トレンチを2箇所設定してGL-90cmまで実施したが、盛土が40cm、砂層が50cm堆積しており、造構、遺物は検出され

第7表 寺川古墳群（TRK）調査区一覧表

番号	所 在 地	面積(㎡)	用 途	調査期間	調 査 結 果	備考
1	寺川2-510-1	509.53	倉 藏	4. 14	トレンチ3ヶ所、GL-70cmまで掘削、遺物、遺構なし。	
2	寺川5-376-1,	429.69	寺 内 住 宅	5. 12	トレンチ2ヶ所、GL-90cmまで掘削、遺物、遺構なし。	
3	寺川4-236の一部	834.79	共 同 住 宅	平成5年 3. 11	浄化槽部分。GL-2.0mまで掘削。	本書掲載

なかった。

### 3区の調査

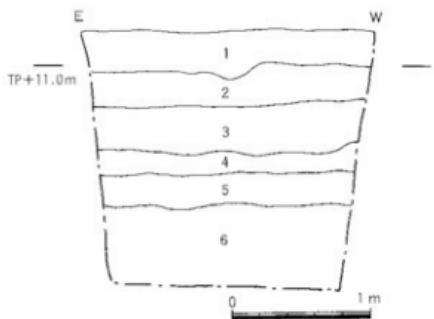
3区は寺川古墳群の北端部に位置し、北側と南側を低い丘陵で挟まれた谷部分で、標高約11.4mを測る。

ここに共同住宅建設の計画が提出されたため、事前に範囲確認調査のために浄化槽部分を調査した。層序は最上位に約30cmの盛土（1層）があり、それを除去すると黒色土（2



第3図 トレンチ位置図 (TRK92-3)

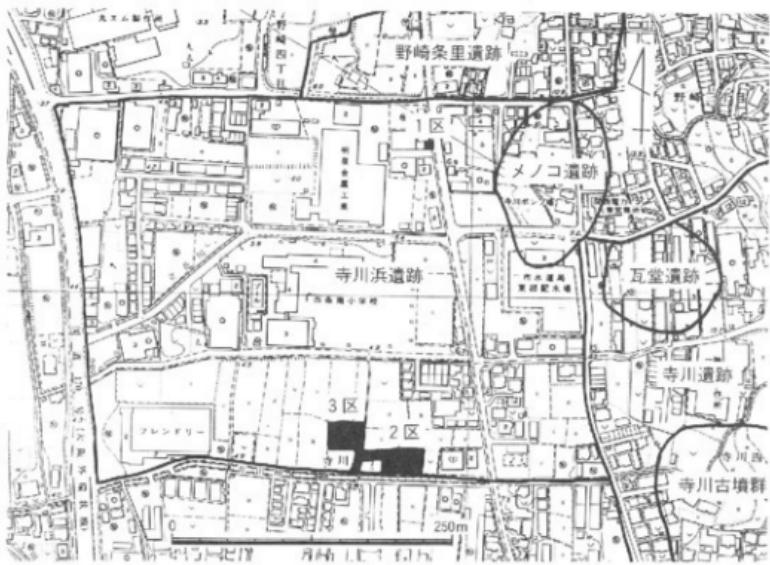
層）が約20cm堆積しているが、これがもとの地表面で、旧耕作土にあたる。2層を除去すると緑灰色砂混じり粘質土（3層）が堆積している。以下掘り下げていくとオーリーブ黄色粘土（4層）、にぶい黄色砂混じり粘質土（5層）、黄褐色砂層（6層）の順で堆積がみられる。



第4図 南壁土層断面図 (TRK92-3)

下層に行くにしたがい砂層になるのは谷部分にあたるためであろう。5層の下部は同じ砂層でも堅くしまっており、地山であると考えられる。遺構の存在は2～4層の間にあると考えられるが遺構面を確認することができなかった。遺構は1層と2層の間で陶磁器片を出土しているのみである。また、建物本体の基礎は盛土と2層の間に収まるため、本調査は実施しなかった。

#### IV 寺川浜遺跡の調査

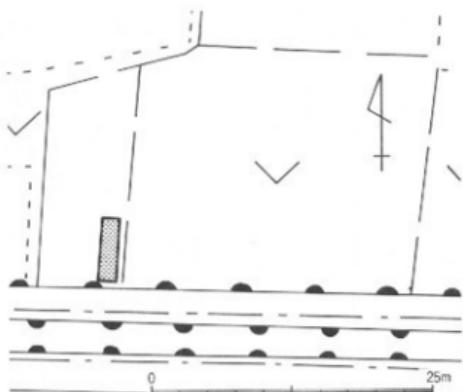


第5図 寺川浜遺跡 (TKH) 調査区位置図

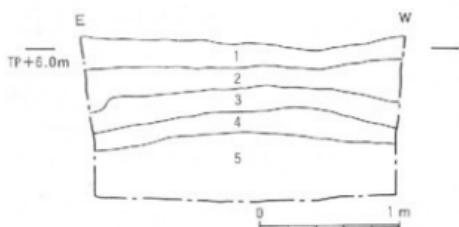
寺川浜遺跡は近年になって周知された遺跡で、大阪生駒線（阪奈道路上り線）の北側と国道170号線（外環状線）の東側に東西約400m、南北330mの範囲で広がっており、北は野崎条里遺跡、東はメノコ遺跡、寺川遺跡と接している。以前より遺物の散布が知られていたが、詳細は不明であった。寺川浜遺跡では今年度3箇所の調査を実施している。1区は共同住宅建設に伴う調査で、弥生時代後期から古墳時代の水田、奈良時代の水田が検出されている。2区は下水道工事に伴う調査で、堅孔部分を調査した結果、古墳時代、奈良時

第8表 寺川浜遺跡 (TKH) 調査区一覧表

番号	所在地	面積(㎡)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	野崎3,4地内		下水道埋設	9.22	堅孔部分、古墳時代、奈良時代の柱穴、土器類、須恵器片出土。	別途報告
2	寺川3-244,1671	997.47	共同住宅	平成5年 3.16	浄化槽部分	本書掲載
3	寺川3-1080	938.07	共同住宅	平成5年 3.16	浄化槽部分	本書掲載



第6図 トレンチ位置図 (TKH92-2)



1. 灰色土 (7.5Y 4/1)
2. にぶい黄褐色粗砂 (10YR 5/4)
3. 褐灰色砂質土 (10YR 4/1)
4. 明黄褐色粗砂 (10YR 6/5)
5. 灰色砂混じり粘質土 (N 4/1)

第7図 南壁土層断面図 (TKH92-2)

堆積が認められた。2層～5層迄で、遺構、遺物は検出されなかったため、遺物包含層は畑で既に削平されているか、1層は他の場所からの客土である可能性がある。建物本体の工事はさらに50cm程盛土を行なって実施することになっており、1層迄に取まるため、本調査の必要ないと判断した。

### 3区の調査

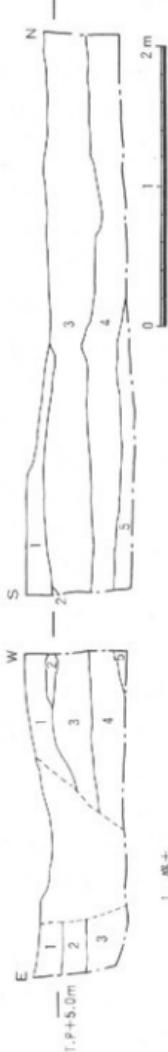
3区は里道と水路を挟んで2区のすぐ西側に位置しており、この里道を境にして2区より約1m低い水田である。ここに共同住宅建設の計画が提出されたため、事前に範囲確認調査のために浄化槽部分をG L-80cm迄調査した。層序は、盛土（1層）が約20cm堆積し

代の柱穴が検出されている。

### 2区の調査

2区は寺川浜遺跡の南縫部に位置しており、標高約6.2mの平地にある。ここに共同住宅建設の計画が提出されたため、事前に範囲確認調査のために浄化槽部分をG L-約1.2m迄調査した。調査地は畑で、表面で須恵器片、土師器片、石器等の遺物を採集している。層序は、最上位に畑の耕作土である灰色土

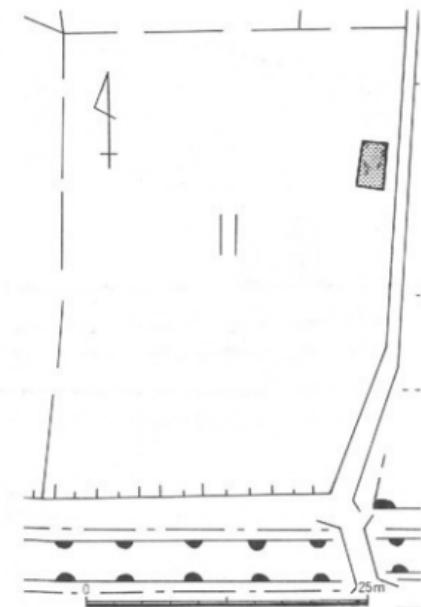
（1層）が約20cm堆積している。先にも述べたように、この層の表面に遺物が含まれている。1層を除去すると、にぶい黄褐色粗砂（2層）が約20cm堆積している。以下掘り下げていくと褐灰色砂質土（3層）、明黄褐色粗砂（4層）、灰色砂混じり粘質土（5層）の順に



1. 盛土
2. 田耕土黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1)
3. 緑灰色砂混じり粘質土 (7.5G 5/1)
4. ナリープ灰色砂混じり粘質土 (2.5G 5/1)
5. 反オリーブ色粘質土 (7.5T 5/2)

第8図 南壁、西壁、土層断面図 (TK H92-3)

第9図



第8図 トレンチ位置図 (TK H92-3)

ており、これを除去すると旧耕作土である黒褐色砂質土（2層）が現われるが、削平のためほとんどが消失してしまっている。2層の下には、緑灰色砂混じり粘質土（3層）、さらに下層にはオリーブ灰色砂混じり粘質土（4層）、灰オリーブ色粘質土が堆積していた。いずれの層からも遺構、遺物を検出することができなかった。建物本体の工事はさらに50cm程盛土を行なって実施するため、本調査の必要はないと判断した。

## V 三箇遺跡の調査



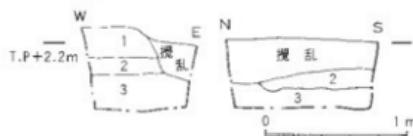
第10図 三箇遺跡（SNG）調査区位置図

三箇遺跡は市域のはば中央に位置する遺跡で、平野部に立地している。戦国時代キリンタン大名であった三箇サンチョの居城である三箇城があるといわれている所である。三箇

第9表 三箇遺跡（SNG）調査区一覧表

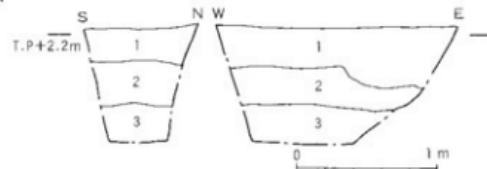
番号	所在地	面積(㎡)	用 途	調査期間	調査発見	参考
1	三箇1-308-6地	1,702.2	下水道埋設	6. 4	人孔(1×2m)1ヶ所。GL 1.5mまで掘削、遺物、遺構なし。	別途報告
2	三箇4-454-1	344.56	食 庫	6. 12	盛土上の範囲。遺物、遺構なし。	
3	三箇1,2地内	21.6	下水道埋設	平成5年 2. 25	基盤(3.6×6m)。GL 4.8mまで掘削。遺物出土。	別途報告
4	三箇3-235-2 330-2	158.70	住 宅	平成5年 3. 17	トレンチ3ヶ所。範囲確認済。	本調査報告

遺跡は現在のところ南北約1km、東西約200~600mの範囲で広がっている。遺跡分布地図では特異な形状で描かれているが、これは絵図や古地図にみられる自然堤防を囲ったものである。以前当地は深野池があったところで、伝承や現在残っている絵図などによると、かつて三箇の村は深野池に浮かぶ島にあったといわれており、「三箇」の地名の由来も三つの島があったことによっている。しかし、これまでの調査では、三箇域に関連するような遺構は検出されていない。三箇遺跡では、今年度4箇所の調査を実施



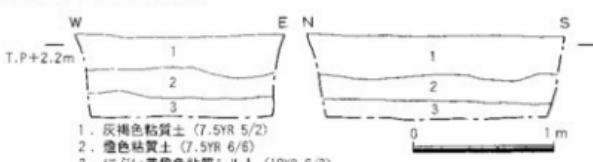
1. 灰褐色粘質土 (7.5YR 5/2)
2. 濃色粘質土 (7.5YR 6/6)
3. にふい黃褐色粘質シルト (10YR 6/3)

第11図 トレンチNo.1 北壁、東壁、土層断面図 (SNG92-4)



1. 灰褐色粘質土 (7.5YR 5/2)
2. 濃色粘質土 (7.5YR 6/6)
3. にふい黃褐色粘質シルト (10YR 6/3)

第12図 トレンチNo.3 西壁、北壁、土層断面図 (SNG92-4)



第13図 トレンチNo.2 北壁東壁工層断面図 (SNG92-4)



第14図 トレンチ位置図 (SNG92-4)

ここでは遺構は検出されなかったが、近くに遺構が存在している可能性が強かった。

#### 4 区の調査

4 区は三箇遺跡のほぼ中央部に位置し、標高約2.3mを測る。敷地の北側は、遺跡の境界であるかつての自然堤防が東西に走り、西側は墓地、南側は水路に接している。ここに住宅を3軒建設する計画が提出されたため、事前に範囲確認調査を実施した。調査は、敷地内にトレンチを3箇所設定して、GL-60~90cmまで実施した。層序は3層を確認することができ、上から、表土である灰褐色粘質土（1層）、橙色粘質土（2層）、にぶい黄褐色粘質シルト（3層）の順で堆積が認められた。いずれのトレンチからも遺構、遺物が検出されなかつたため本調査は実施しなかった。

#### 註

- (1) 梶山彦太郎・市原実 「大阪平野の発達史—C<sup>14</sup>年代データからみた」『地質学論集』7 (1972)
- (2) 大東市教育委員会 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集 (1987)
- (3) 大東市北新町遺跡調査会 『大東市北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』(1986)
- (4) 大東市教育委員会 『寺川・鍋田川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第8集 (1991)
- (5) 大東市教育委員会 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集 (1990)
- (6) 大東市教育委員会 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第7集 (1990)
- (7) 大阪府教育委員会 『堂山古墳群発掘調査概要』(1973)
- (8) (2)と同じ。
- (9) (5)と同じ。
- (10) 大東市北新町遺跡調査会 『大東市北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』(1991)
- (11) 東宏 「四 古墳時代」『大東市史』大東市教育委員会 (1973)

しているが、1・2区では遺構、遺物が検出されなかった。3区では下水道管理設に伴い堅孔部分の調査を実施しており、GL 1~2 mで近世の水路と杭列が、またGL-2.5 mまでに古墳時代の須恵器を含む遺物包含層を確認した。

- 02 (3)に同じ。
- 03 同じ。
- 04 大東市教育委員会 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集 (1989)
- 05 大東市教育委員会 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第4集 (1989)
- 06 大東市教育委員会 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第5集 (1990)

図 版



調査前



調査状況



調査状況



南壁土層断面



測量調査状況



同上



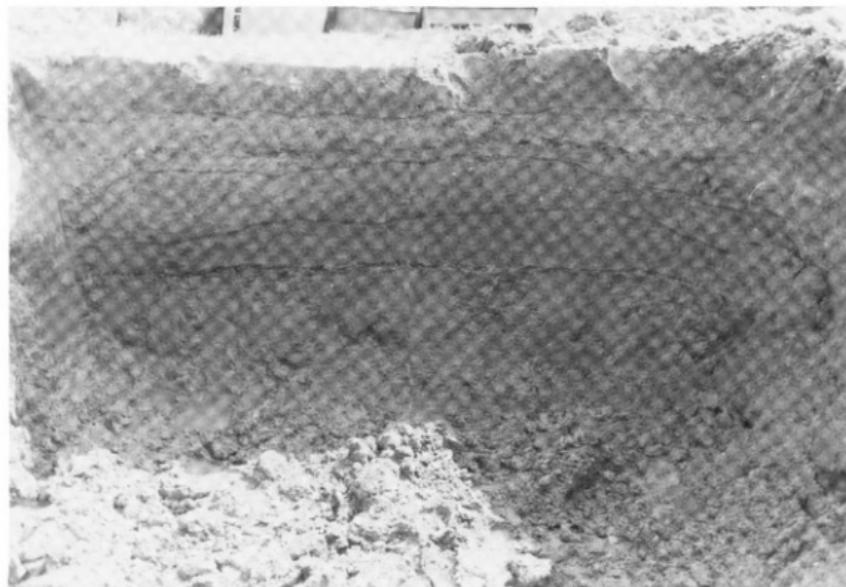
調査前



トレンチ全景（北から）



調査状況



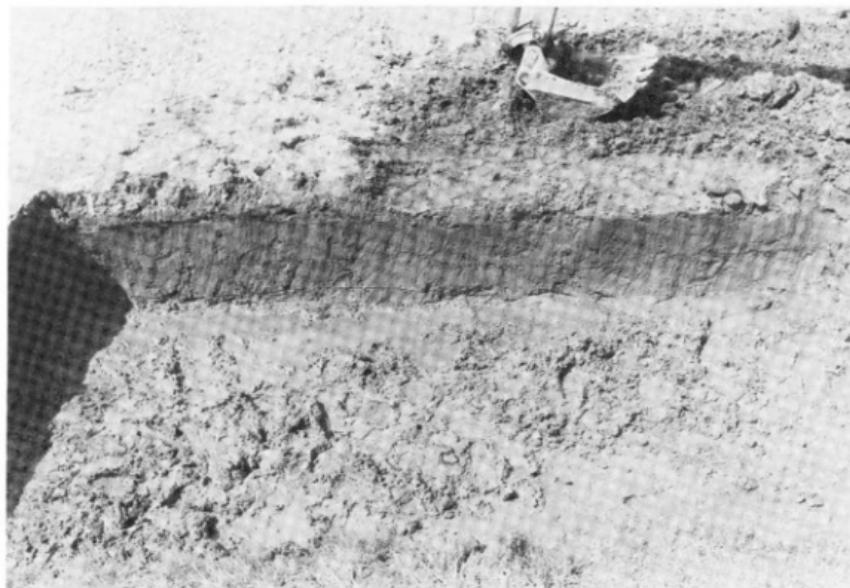
南壁土層断面



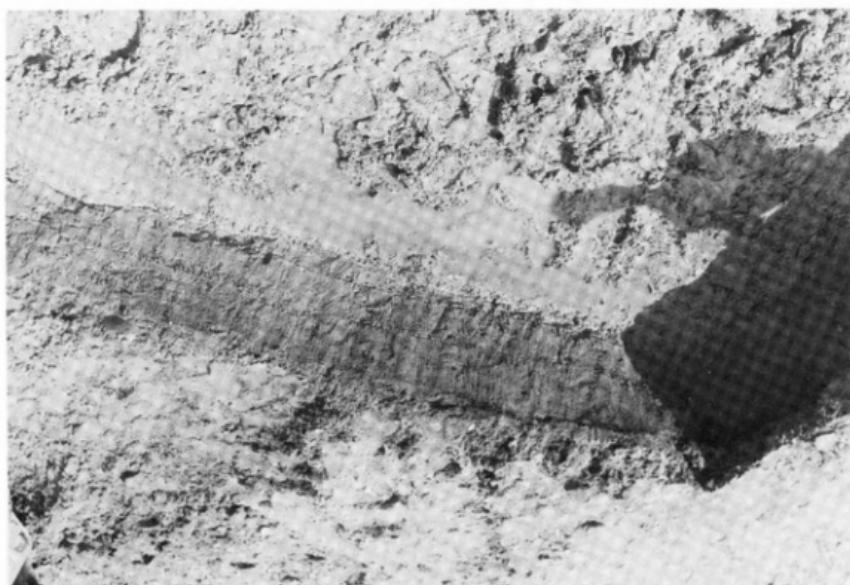
調査前



調査状況



西壁土層断面



同上



調査地全景（東から）



トレンチNo.1 調査状況



トレンチNo.2 調査状況



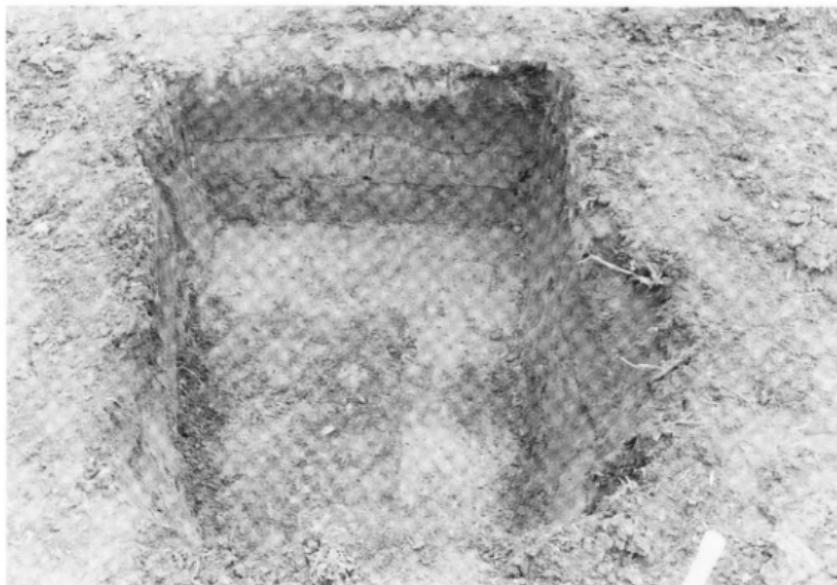
トレンチNo.3 調査状況



測量調査状況



トレンチNo.1（南から）



トレンチNo.2（南から）



トレンチNo.3（東から）

